

がんゲノム医療に関する保険適応について

みなさん こんにちは

すでに6月初旬に『がんのパネル検査』が保険収載され、個別化医療に大きな前進があったというニュースを耳にされていると思います。

テレビその他でもその解説が行われていましたが、今回は私の方で少し解説と当院での展望についてお話ししたいと思います。

まずは、基礎知識から

『がん』は 『がん細胞』の集団（塊）ということになります。

『がん細胞』は 正常の細胞とは、違う特徴を持ちます。

その特徴をもたらすのは、正常細胞とは異なる遺伝子の変化になります。

このがん細胞の遺伝子の変化を調べることで、治療に役立っているのが今の治療の主流になりつつあります。

すでにこうした検査は、ある特定の領域で特定のものに対して行われていました。

がんの遺伝子の変化は1つだけということではなく、かなり幅がありますが100とか1000とかかなり多くの箇所で変化が見られることがわかっています。

それでは、1つずつこれらの変化の有無を調べることに、全部まとめて例えば100くらいまとめて検査するのとどちらが効率がよいと思いますか？

多くの方が、まとめて検査する方が効率がよいとお考えになられたと思います。


それはその通りで、正にまとめて検査してしまう方法 = 『パネル検査』というものです。

今回、そのパネル検査がごく限られた場合に保険適応となったということです。

全員にすればいいじゃないか！ と思いの方もいらっしゃると思います。

理想はその通りかと思うのですが、そういうわけにはいきません。

これも当たり前と理解していただけると思うのですが、1つの検査をするのと比べて、まとめて検査する方が、要する時間や金銭的成本も大きくなります（もちろん1つずつ別々に100この検査するよりも、まとめて100このものを検査する方がお得ではあるのですが）。



また、出てきた結果の解釈という大きなもう一つの問題があります。

検査をしますと、たいてい何らかの遺伝子の変化が認められます。

今度はそれらの治療に関する重要さの度合いなどを、専門家集団が過去のデータベースと参照しつつ、最新の研究（これは本当に日進月歩）などと共に解釈して、治療に反映できるものがないかどうかを結果に添える過程が重要になります（生データを治療に役立て易いように解説をつけるということです）。

もちろん、AI の活用というのも今後必要になってくるのですが、多くの専門家がそれぞれの個々の別の業務との折り合いをつけて、1 度に集まって討議する機会を経て結論を出すことが必須なのです。

他の分野と同様にこの領域も人手不足が著しく、検査を受けられる人数には限りがあるということもご理解いただきたいと思います。

従って、パネル検査はまとめて検査する（『網羅的に』という表現がしばしば用いられます）意義が高い方が対象とされています。

大まかにいうと、現時点で定まった治療法が確立されていない方（珍しいタイプのがんにかかられた方）や、どの治療法を行うのがよいか決めかねる方（がんがどこから発生したか特定が難しい方：原発不明がん）、すでに既存の治療を受けてこられたが期待される効果が得られなかった方などがそれに当たります。

もう一つお伝えすることとして、このパネル検査を保険適応で受けられるのは、特定の医療機関に限られます。

現時点では、当院でこの検査を受けていただくことができません。

しかし、当院でも検査が受けられるように現在準備を進めています。

少しだけおまたせすることになります。ご期待いただければと思います。

6 月から保険適応となったパネル検査ですが、実際に検査された方はまだおられないようです。

先に述べました検査後の結果解釈までの仕組みや取り決めがまだ整っていないからです。数ヶ月先になって体制が整うのではないかとされており、我々の準備が整うころに実際検査が行われ出すのではないかと予想され、さほど皆様にご迷惑をかけずに体制を整えられるのではないかと考えています。

この領域のことは皆様もご興味があるところと思います。

私もハートラちゃん講座等、お話しする機会があればできるだけ継続して皆様に情報提供させていただきたいと思います。

では、今回はこのあたりで。

